

令和5年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育ステージ	<p>早期：減数分裂期～穂ばらみ期（コシヒカリ）</p> <p>早植：分けつ盛期～穂ばらみ期</p> <p>普通期：活着期～分けつ盛期</p>
生育概況	<p>早期：生育は順調で、出穂期は平年並～やや早まると見込まれる（コシヒカリ）。</p> <p>早植：生育は概ね順調。高温で経過しているため、藻類・ガス害の発生が多い。</p> <p>普通期：移植後高温で経過しているため、植え傷みや除草剤による薬害、藻類・ガス害の発生が多い。</p>

1 気象経過（前橋地方気象台の気象データ、7月は第3半旬までのデータ、参考資料参照）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+1.8℃	+0.5℃	+1.2℃	+1.4℃	—	—	—
降水量(平年比)	53%	106%	184%	30%	—	—	—
日照時間(平年比)	115%	110%	111%	55%			

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培（6月15日以前の田植）

早期栽培は、茎数は確保されており生育は順調。高温のため「コシヒカリ」の出穂期は平年並～やや早まる見込み。

早植栽培は、高冷地で育苗期間に夜温低下が見られたため苗丈が短く活着の遅れが見られたが、移植後は高温・多日照のため生育は回復し、全域で茎数は概ね確保されている。また、ガスによる下葉の枯れが平年よりも多く見られている。

イ 普通期栽培（6月16日以降の田植）

移植は麦の刈り取りが遅れた一部ほ場で遅くなったものの、概ね平年並に行われた。移植後は高温の影響による植え傷み、除草剤による薬害、ガスによる生育抑制が散見されており、被害を受けたほ場では茎数がやや少ない傾向となっている。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

育苗期間では、苗立枯病、もみ枯細菌病が例年よりも多く見られた。

本田病害では、全域でばか苗病が、中山間地域でいもち病が散見される。

本田害虫では、全域でイナゴ類が、中山間地域でイネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネクロカメムシなどの発生が本年よりも目立つ。

障害では、全域で藻類の発生、ガス害の発生が多い。

イ 普通期栽培

育苗期間では、ムレ苗、もみ枯細菌病が見られた。

障害では、藻類の発生、ガス害の発生、除草剤の薬害が多い。

(3) 作況ほ等の調査結果

ア 作況ほの調査結果（表1参照）

県平均の移植後20日の草丈は31cm(過去平均比99%)、茎数は206本/m²(同116%)、移植後40日の草丈は56cm(同101%)、茎数は500本/m²(同104%)であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

稲麦研究センター（6月23日移植）

「ゆめまつり」の移植後20日の草丈は36.3cm(過去10か年平均比98%)、茎数は347本/m²(同96%)であった。

東部地域研究センター（6月1日移植）

「ゆめまつり」の移植後20日の草丈は36.3cm(過去10か年平均比115%)、茎数は281本/m²(同71%)、移植後40日の草丈は63.1cm(同102%)、茎数は670本/m²(同94%)であった。

表1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）（）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後20日調査			移植後40日調査		
		か所数	草丈 cm	茎数 本/m ²	か所数	草丈 cm	茎数 本/m ²
県	6/5(0)	14/15	31(99)	206(116)	9/15	56(101)	500(104)
中 部	6/15(0)	4/4	31(95)	240(122)	2/4	58(97)	466(102)
西 部	6/8(-3)	4/4	32(101)	172(109)	2/4	64(99)	486(108)
北 部	5/22(+2)	4/4	28(103)	196(114)	4/4	46(98)	525(102)
東 部	6/10(+2)	2/3	32(99)	228(120)	1/3	74(118)	495(109)
早期・早植	5/28(+1)	9/10	29(101)	223(115)	9/10	56(101)	500(104)
普通期	6/21(-1)	5/5	33(96)	176(119)	0/5	—	—

注1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。

2) 移植期欄の（）内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 7月15日現在で調査時期となったほ場のみで、か所数欄は「調査か所/設置か所数」を示す。

4) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。

5) 館林市は移植時期が大幅に遅れ、ほ場が変更となったため、県、地区、作型平均から除外した。

(4) 作柄のまとめ（表2）

各地域の作柄は、すべて「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表2 地帯別作柄概況（）内は普及指導課・地区農業指導センター

地域別	作柄	作 柄 概 況
中 部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・早植栽培：分けつ後期～幼穂形成始期。移植作業は順調に進み生育は順調。本田では一部でイネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネクロカメムシが発生(中部、渋川)。 ・普通期栽培：活着期～分けつ盛期。移植作業は麦の収穫遅れで一部遅れが見られたが、概ね平年並に終了した。高温で経過したことから、藻類の発生が多く、植え傷みや除草剤の薬害、ガス害が多い。赤枯症状も散見されている。ばか苗病の発生も見られている(伊勢崎)。
西 部 (西部) (藤岡)	並	・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。育苗期間は苗立枯病が散見。移植作業はやや早い～平年並となり、生育もやや早い～平年並で順調に経過している。藻類の発生が多く、一部で葉いもち・イネドロオイムシ(富岡)が発生。

(富岡)		・普通期栽培：活着期～分けつ盛期。育苗期間は一部地域でばか苗病が散見（富岡）。移植作業は麦の収穫遅れで平年並～やや遅くなった。移植後は高温のため、生育は概ね順調であるが、ガス発生ほ場や老化苗使用の7月以降の移植ほ場で、ガス害や植え傷みによる生育遅延が見られている。藻類の発生が多く、除草剤の散布に影響が見られている（西部、藤岡）。
北 部 (吾妻) (利根 沼田)	並	・早植栽培：分けつ盛期～穂ばらみ期。育苗期の夜温低下で苗丈がやや短く、苗立枯病、もみ枯細菌病も散見された。高標高地中心に移植後も低温の影響で活着の遅れが見られたが、その後の高温で生育は回復し、茎数は概ね平年並に確保されている。本田では、葉いもちがごくわずかで、ばか苗病（利根沼田）、イネミズゾウムシ（吾妻）、イネドロオイムシ（利根沼田）がやや多い。藻類がやや多く、赤枯症状の発生も見られている。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	・早期栽培：減数分裂期～穂ばらみ期（コシヒカリ）。幼穂形成期（あさひの夢、ゆめまつり）。茎数は平年並に確保されている。6月中旬以降の高温により出穂期は平年並～やや早まる見込み。イナゴ類・藻類が多い（館林）。 ・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。概ね生育は順調で茎数は確保されている。ばか苗病（太田）が散見、イネドロオイムシ・ミズゾウムシ（桐生）、イナゴ類（館林）、藻類、ガス害が平年よりも多い。 ・普通期栽培：分けつ前期～分けつ盛期。麦の収穫が早まったことから移植は平年より2日程度早まった（東部）。移植後の生育は概ね順調であるが、高温の影響で藻類が多く、除草剤の葉害や赤枯症状、ガス害で生育抑制が見られている。一部でばか苗病散見（桐生）。

3 技術対策

(1) 全般

気象庁の長期予報では、向こう1か月は高温傾向が続くことが予想されているため、高温による生育の前進が見込まれる。また、穂ばらみ期～登熟期が高温となった際は、不稔や白未熟粒・胴割粒等の発生が懸念される。

(2) 早期・早植栽培

ア 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

イ 病害虫は、天候や今後の発生状況および発生予察情報を踏まえ、適期防除に心がける。ばか苗病の発生が見られる場合は、株ごと抜き取りを行う。

ウ 穂ばらみ期から出穂後7日までは、湛水管理とし、それ以降は間断かん水を基本とする。ただし、穂ばらみ期以降に高温が続く場合は、田面の高い部分が水で隠れる程度にかん水し、足跡に水が残る程度に自然減水したのち、再びかん水を実施する、いわゆる「飽水管理」を繰り返したり、夜間入水の実施や、かん水回数の増加で地温低下を図る。なお、掛け流しかん水は用水不足となるためなるべく控える。また、出穂後の高温・強風時や台風襲来時は、風がやむまで湛水管理を行い、品質低下を防止する。

(3) 普通期栽培

ア 水管理は浅水で管理を行い、分けつの確保を図ることを基本とするが、水温が高い場合はこまめなかん水の実施で水を入れ替え、地温低下を図る。

イ 有機物の分解によるガス害が懸念されるほ場では、間断かん水や軽度の中干しによりガスの放出を促す（夜間落水、日中入水）。有効茎が確保できたほ場では中干しを開始し、生育量の制御と根の健全化を図る。

ウ 中干し後は根腐れ防止のため間断かん水を基本とするが、高温が続く場合には飽水管理を実施する。

エ 中干しに合わせ、ケイ酸カリ（20～40kg/10a）または塩化加里（10kg/10a）の追肥を行い、根の機能回復を図る。

オ 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

カ 天候や病害虫の発生状況および発生予察情報を踏まえ、適期防除を心がける。ばか苗病の発生が見られる場合は、株ごと抜き取りを行う。稲こうじ病の発病履歴のあるほ場では、薬剤により防除適期が異なるが出穂20～10日前を目安に防除を行う。

《参考資料》

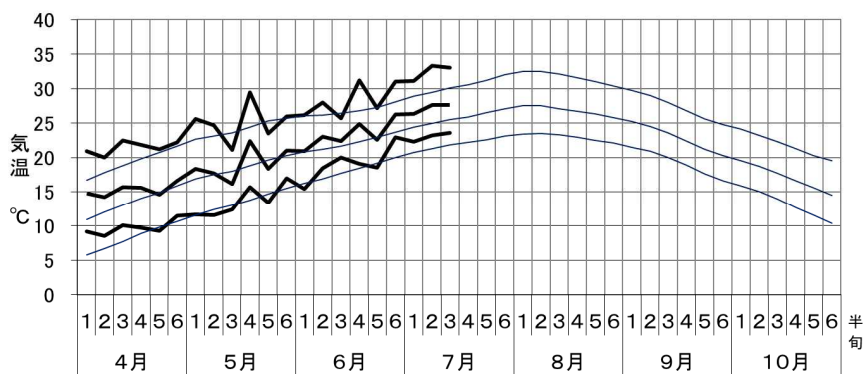


図1 気温

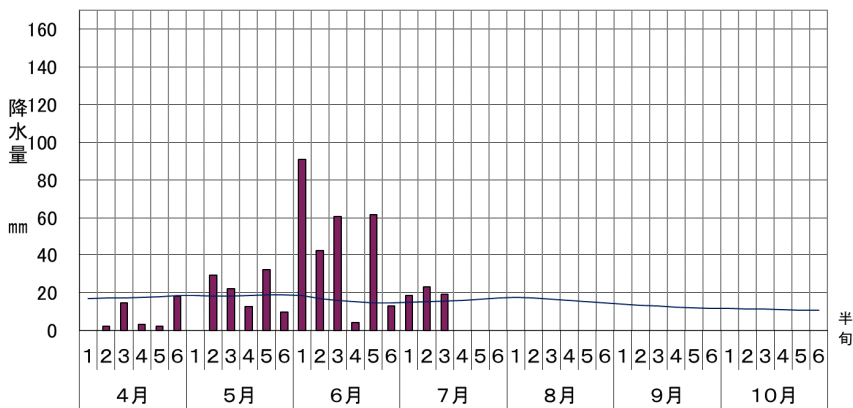


図2 降水量

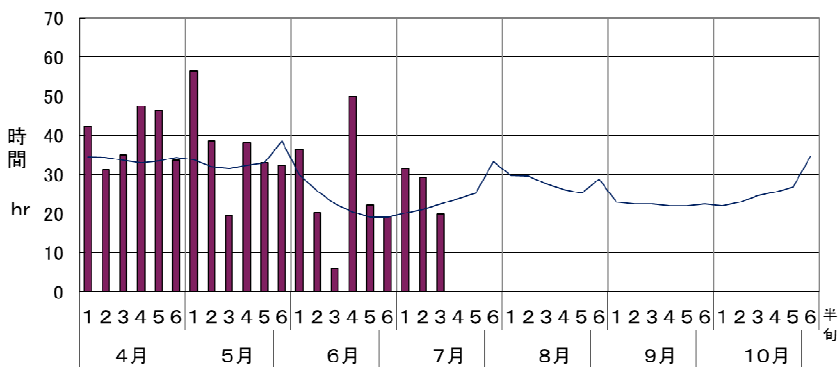


図3 日照時間